

寺 報

清風

割れた皿は諸仏か

第168号

発行人

伊 勢 徳

発 行 所

真宗大谷派 称念寺

知立市新地町西新地65

TEL (0566) 83-8888

FAX (0566) 84-1262

www.shounenji.com

印 刷

有限会社 クシロ印刷

立春を間近に控えた或る日の晩、台所から妻の文句が聞こえてきた。確かに独り言ではない、私の耳に届く大きさの声が聞こえ、居間のソファに座っていた私はと云えば、反論も謝ることもせず、憚然として何もしないでいた。仏道遊行の利益りやくというのではないが、これまで考えもしなかった大事な視点や仏心にも納得し、多少なりとも反省した頭で「有り難い」という感謝の気心も大切にしてきたつもりではあるが、そのことで夫婦仲や親子の問題、その他様々な人生の課題が解決するわけではない。煩惱を減らすべく真摯に生きたお釈迦さまなら

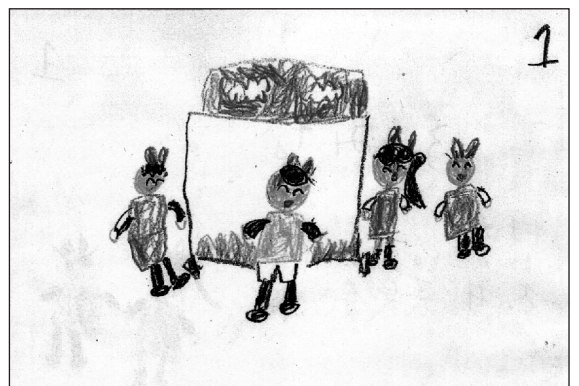
いざ知らず、否いなかの師も同様であろうが、特に真正直に生きた人間親鸞には直じかに尋ねなくとも、私と同じ煩悶はんもんがあったに違いないと、『聖典』を通してその言葉に触れる折には、そう身近に感ずることがが多くなつた。

事の始まりは、その十日ほど前に妻が買って来た、淡い綺麗な水色の、波打柄の小皿であつた。三人娘の数を入

て計五枚あり、そのうちの一枚が、私が皿洗いをしている最中に割れてしまった。毎日の炊事なので時短に努め、多少は乱暴にシンクに放り込んだのかも知れないが、食器を重ね置いた際に端が欠けたので、誰かが怪我をしてはとゴミ箱へ捨てたのだ。実際「まだ新しい皿だから怒るだろうな」との心中の思いが、自発的な報告を遅らせ、不意に発覚した場面ではあつた。だが皿が割れたのは、妻も珍しく私用で外出していた際の事故である。坊さんの先輩後輩の丁寧さを見習い、私は寺の掃除だけでなく、共働いで妻が残業で遅いこともあり、最低限の家事も担つてきた。果して妻にとり理想ではないのかも知れないが、伴侶としては及第しているはず。感謝されこそすれ、文句を言われる筋

合いはないと感じられた。

そも私からすれば、幾らの代物かは知らないが、日常で使用する食器のうち皿など消耗品、安くて良い物など何処にでもあるので、執着などせずに割れたら買えば良い。また、刺身の醤油皿には大き過ぎるし、おかずの取り皿には小さ過ぎる、申し訳ないが正直私からすると、使い勝手は余り良くないとも感じていた皿だ。ゴミ袋やサランラップでもそうだが、どうせ使うからと私は余分に買い置きする派だが、皿でも割れることを見越して二、三枚、余分に買っておけば良かっただけのこ



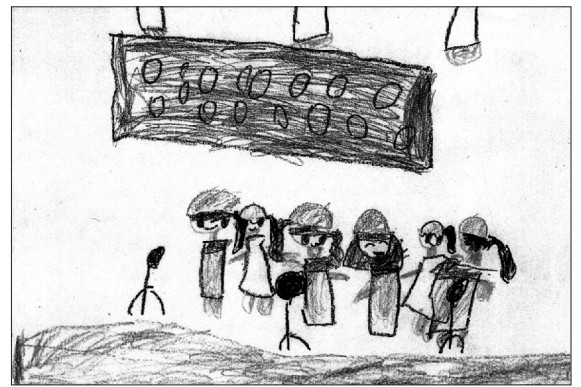
徳風5歳児 松井芙実奈『生活発表会』

と。割れた時には思わず「チッ」と舌打ちし、「割れやすい皿だなあ」と皿にすら責任転嫁し、小さな遺恨も覚えた。しかしながら、私が「うるせえな」と言い返した上「ああでもない、こうでもない」と詰まらない夫婦喧嘩になればお互い悲しいだけだし、家族とはいえ時折、変な気まで使わせたりしてしまっている傍らの子供達も嫌な気持ちになろう。

篤信の三河だけでなく、全国の本堂や家の仏間で教えられながら、人生を歩んできた歴史がある。繰り返して法話で聞いた件だ。私達の自我は、自分で皿を割った時は「皿が割れた」と、恰も自分には責任が無いように語り、自分以外なら「誰が皿を割った」と誰かのせいにする。聴聞の場では笑いながら、だが人間の本质としてハッと共感させられてきた見事な例示である。この娑婆で、仏の願いを生き

ることは難しいが、苟もその仏の眼をお借りするのだ。ことは「お恥ずかしい」では済まず、この「自」中心という「邪見驕慢」の根っこが、私達の日々の感情や他人の噂話、苦手な人との仲違い、大切な人の為の行動のみに留まらず、現実の戦争や差別、原発や環境破壊にまで、どこまでも繋がるのだから「後生の一大事」なのだ。

ところで、役目を終え捨てられたあの小皿も、こうして寺の新聞にも紹介され、仏法伝道のご縁にもさせていたのだので、既に「仕方なく割れた皿」のまま往生し成仏していよう、とは少々乱暴なのかも知れないが、私の方では、どうにも「ごめんなさい」という気にはなれなかった。こういう所に、人間の心の歪みの、その複雑さがある。相手の立場を慮り、小声で「ごめんね」と伝える位なんの事はないが、それも非難されてからでは乗れない話だ。よく「私なぞは」と謙遜する人も、お前はバカだと人に言われれば腹が立つ。だから私は、少し



徳風5歳児 青山真奈『かさじぞう』

我慢して、黙り込むが一番の得策だと判断したのであった。世間では何かすると「あいつがどうだ、こいつは酷い」と、朝から晩まで、皆で自分の都合に合わない人を批判ばかりしている。反対に、自身自身の過去に関しては、同じ過ちでも「あの時はしょうがなかった」と、こちらは言い訳も成立していよう。人は盲目的に、常に「私が正しい」と、即ち間違っているのは相手だと、幻想の正義で互いに地獄を作り出す。この現実こそが、お釈迦さまの悟られた、人間存在の核心である「無明」ということである。君はまだ

私も知れないが、私は物事がわかっていく。私と違い、何故あなたは人の話を聞かないのか。どう考えても相手が悪い。善悪の分別もできる。一生懸命に苦勞も経験もしてきたから、俺の言うことを聞いときゃ間違いないんや、と。浄土真宗の教えでは「自力の執心」と、言い当てられ胸に届く時、それが転じて入門の鍵と成る。

「事実、たとえ「ほらね」と証明せずとも、少なくとも我が偏見では相手の善悪は判明しない。また「私だけが悪いのか」と、相手も過去に同じ過ちがないのか問い返す必要もない。先ず私が悪い。そのことだけは間違いないに違いない。そう凡夫という、実存そのものの本質が聞こえたら、あとの「生き方の問題」は業縁に依るので、大乘仏教の真髄には「こうしたら良い」という模範解答はない。縁により何でもしかず。こう我が身を通して知らされる処に信心があり、その一体である「無有代者」や「無常」という国土の根源に驚かされる。

「どうしたら良いか」とばかり考える、人間の根本的な誤りに気付くかどうか。 本多雅人

仏典マンガ

絵：小川ゆきえ <59>

仏さまのおしえ

出典は『パンチャントラ』 インドの説話集、世界最古の物語集です。

サンジヤヤの後悔



若院の伝道掲示板

- 終わった過去
わからない未来
二度とない今
- 目の前の
あなたか私が
先に死ぬ時
- 他人を責めた
同じ弱点が
私にもあった
- 決めつけが
分かり合えない
関係を生む

聴聞させていただきながら苦
勞して、辛うじて生きるとい
う、かけがえのない尊きそれ
ぞれの人生が、孤独で互いに
迷いながらも縁により交差し、
実際には親近でも分かり合え
ない関係も多々あるが、とき
に支えられたり響き合ったり
して、私達は目の前の出遇つ
た人たち全てと最期には必ず
死別する、老病死する命をし
て、二度とない時間を共に生
きていく。この事実の確かめ
が、手を合わせ念仏するとい
うことの中身なのだ、先達
から教えられてきたように私
は思う。

〔文章 若院〕

■講師紹介

沙加戸 弘(さかどひろむ)

昭和21年生まれ。滋賀大学
教育学部を卒業後、同県公立
学校の教員を経て、後に宗門
の大谷大学で教鞭をとる。国
文学と仏教文化に造詣が深い。
大谷大学名誉教授。著書『親
鸞聖人御絵伝を読み解く』(法
蔵館出版)他。

先生は初めて来寺され「唯
説弥陀本願海―願われている
身です―」との講題にてご法
話いただき予定です。聴聞に
お越しくください。

■年忌(法事)一覧

自宅の繰り出し位牌、過去
帳等を確認いたしましたよう。

- 1 周忌…令和4年逝去
- 3 回忌…令和3年亡
- 7 回忌…平成29年亡
- 13 回忌…平成23年亡
- 17 回忌…平成19年亡
- 23 回忌…平成13年亡
- 27 回忌…平成9年亡
- 33 回忌…平成3年亡
- 37 回忌…昭和62年亡
- 43 回忌…昭和56年亡
- 47 回忌…昭和52年亡
- 50 回忌…昭和49年亡
- 100 回忌…大正13年亡

■娑婆の縁 尽きて

◇令和4年

宮松きみ子	90	弘法町	11	3
荒木 幸一	83	山屋敷	15	15
畠中知恵子	56	安城市	25	15
平野 時子	92	本町	28	25
小林壽美子	91	逢妻町	12	2
坂田 盛彦	81	西町	12	2
成瀬 芳子	94	西尾市	16	12
伊藤 勝	78	山屋敷	19	16
小木 建人	76	新地町	20	19
鈴木 釧郎	83	新地町	31	20
◇令和5年				
坂田 博司	95	内幸町	1	3
川人 道子	78	豊田市	22	3
豊田 月江	99	内幸町	2	13
酒井 厚子	82	豊田市	14	14
大橋 一夫	89	逢妻町	14	14
田中 豊子	98	弘法町	16	14

■祠堂・永代経のご志納

近藤 尚之様 豊田市



■彼岸のおこころ

毎年お彼岸の時期になると、
お寺やお墓にお参りする方々
が多くおられます。日常では
「もつと年金があつたら楽な
のに」、「私は健康のまま長生
きしたい」、「嫌な人とは会
いたくないな」等と、目の前の
条件ばかりを意識して生活し
ている私たちです。お彼岸と
して、先に命を終えていった
家族を偲ぶことで、改めて自
分の人生に向き合う機縁とし
てきました。

故人と今、出会い直すこと
ができたならば、私たちに何
を語り、問い掛けるのでしょ
う。南無阿弥陀仏。

■正信偈学習会

日時：4月6日(木)

午後1〜5時半

会場：称念寺本堂

参加費：5千円(当日申込)

講義：四衢(よつし)亮師(あきら)

(高山教区・不遠寺住職)

■日曜おあさじ特別法話

日時：6月18日(日)

午前7時

法話：保々(ほぼぼ)眞量師(しんりょう)

(熊本県・光行寺住職)